

（前ページから続く）  
ほかに、景気の悪化、産業の低迷など、さまざまな課題、困難に思える現実があります。それを悲観するのではなく、それを踏まえながら、いかに、市民皆が力を合わせて将来に夢や希望を持てる、活力ある地域社会をつくることができるかどうか。協働のまちづくりが、一つの道筋となってくれると考えます。

協働のまちづくりについては「従来の行政サービスの一部を市民、団体などが担う」ようなイメージを持たれるかもしれませんが。確かに、行政と市民の役割分担を、再検討すべき時期にはあります。

しかし、そうした一面だけにとらわれず、例えば、中小事業者も農家も、単独ではなく力を合わせることを考える。生活の中さまざまな場面で、人とのつながり、協力し合うことを考える。

家族のあり方や生活様式が、ここ数十年で大きく変わりました。それでも、この地域にはまだ「昔の、古き良き」といった風土、人情が残っています。お年寄りや子どもを、隣近所、

町内、集落で見守り、サポートするような地域社会にしたい。個人の生活に配慮した「現代の隣組」で地域の絆をよみがえらせたい。このことが自立性を高め、にかほ市の活性につながると思います。

にかほ市には、先人・先輩たちが築きあげてきた、素晴らしいまちづくりの基盤があります。鳥海山、日本海など、誇れる自然財産もあります。基盤に磨きをかけ、財産を積極的に活用しながら、地域の特性・特色を活かし、新たな歴史と文化を創造していきましょう。

私も行政も引き続き、市民福祉の向上に努め、市民と協働しながら、課題に取り組んでまいります。皆が誇れる、小さくともキラリと光るにかほ市を創造するため、市民の皆さんの更なるご活躍とご協力をお願いいたします。  
（横山忠長）

## 渡部幸悦の言

私は、金浦にある小さな部品加工の会社を経営しています。創業は昭和28年。この地域では



わたなべこうえつ  
渡部幸悦 昭和39年生まれ

【略歴】  
昭和62年ダイキョー精機(株)入社。平成11年同社代表取締役就任。同22年からにかほ市工業振興会長。

古く、私で3代目になります。ことし4月からは市工業振興会の会長を務めさせていただいています。同会は、技術革新や人材育成、新分野進出など、企業活動の根幹にかかる改革を推進するため、企業間の協力と連携を目的に設立されました。

にかほ市の人口は、現在、28,000人余り。それでもTDKが存在するおかげで、県内では類を見ないほど、鉱工業が盛んな地域です。鉱工業に携わる数は160社を超え、市の主要な産業を担っています。

秋田県を含め、地方では人口減少と流出が加速しています。そんな中、「地元を賑わいを」とさまざまなイベントを行う方

から徐々に衰退する。気づくまでにかなり遠回りをしました。

リーマンショックは、私にとってはまさにショック療法となり、同時に、郷土で事業を続けていくこと、地域とそこに住む人々を大事にする覚悟を、新たにしました。

景気が良く、皆、高級志向な時代もありました。その後、グローバル、ボーダーレス化、金融ビッグバンなど、分かったような分からないような言葉で、日本は変わっていきました。

今では国境を越え、強いものだけが生き残る傾向が顕著になり、勝ち組・負け組などという、私の嫌いな言葉も生まれてきた。これからの時代、自分がどれだけ得するかではなく、誰に（地元）儲けさせるか？

お金は循環しなければ意味がない。ネット注文で他所にお金を流すより、地元にお金を落とす。それは循環して戻ってくるはず。この価値観こそ、グローバル時代に地方が生き残る肝と考えます。

商業など市内が客層の産業と、外貨を稼げる製造業。車の両輪のように、地域のために力を合

高速も新幹線もないし」と。拠点を移した方が、営業も物流も有利で、実際、何度か勧められ検討した事もあります。それをしなかったのは、他に理由はあれ、一番は自分のルーツへのアイデンティティ、帰属意識に他なりません。にかほ、日本海と鳥海山に囲まれた、この地に先祖の墓があり、遠い過去と遠い未来をつなぐ責任が自分にはある。そう思い、頑張っている経営者は多いはずです。県境を越え企業活動をする我々が、この地で商売を続けていくために必要なのは、高速をはじめとするインフラ整備。道路網は血管です。7号線は大動脈であるべきが、いまだに片側1車線。冬季の三崎県境は狭窄症の箇所と言えるでしょう。道路整備は行政に強く求めたい。

一昨年のリーマンショックをきっかけに、世界は100年に1度といわれる経済不況に。非正規労働者は整理され、企業は休業補償を受けながら日々をしのぐ。我々中小零細企業は、こうした自助努力の及ばない外部環境にどうしても振り回されてしまう。現在も不安要素が…

しかし、誤解を恐れずに言う、リーマンショックの時期はある意味楽しい時期でした。資金繰りを思うと冷や汗ものでしたが、さまざまなことに挑戦できた時期です。テレビなどでも取り上げられ「平日は休業しません！」と宣言し、1個からでも受注。外部環境を逆手に取った地道な営業の結果、ありがたいことも取引復活、新規開拓につなげることができました。地獄の淵を見るような、得難い経験でした。

私が会社代表に就任したばかりのころ、過去最高益と最低の売上業績を経験しました。ITバブルによる最高益から1年で奈落の底へ。どうしてよいかわからずに、何でも一人でやろうと、もがき、悪循環が続いた。「自分にこの商売は無理だ」それを辛うじて踏みとどまり、考え続けました。

会社の初代・創業者と後継者の違い。創業者は、自分の思いを実現するために、工場をつくり、人を雇用する。後継者は逆で、好む、好まざるに関わらず工場、人を与えられ、現状維持を1つの目標にしてしまう。だ

々もいて、頭が下がる思いです。では、我々に何ができるのか？鉄やアルミなどを相手に商売している我々ができることは？それぞれの企業が元気になること、それこそが町おこし、地域活性化の根源であると思い至りました。イベントだけでは継続した活性化にはつながらない。商業、工業、観光、農林水産等、それぞれの連携が大事です。

現在、市内の製造業ほとんどが県外に沢山の顧客を持っています。にかほ市を国に例えるなら、我々製造業は「外貨を稼いでいる」と言えます。取引先は海外企業であっても構わない。それが可能な業界です。顧客からは「にかほは遠い。

わせなければなりません。そのためには意識改革が不可欠。流行らないですが、絆や義理人情が地域を助ける鍵になるような気がします。

「企業の存在意義は、利潤追求にあり」と教えられてきましたが、グローバル化以前の正論でしょう。

子どもたちが、生まれ育ったこの町にいつでも帰ってこれるように。それが我々の大きな使命です。製造業はにかほ市で一番雇用を創出できるかも知れません。我々は頑張らなければなりません。工業振興会では、会員同士の情報交換や各種研修事業、講演会などを通して、それぞれの企業が学び、発展し、にかほ市が元気になる礎となるよう、活動を行っていきます。

## 菊池史利の言

合併3周年と同時に、社としては初めての、にかほ市駐在として赴任しました。幼いころに住んでいたこともあり、縁を感じています。